

第八條ノ二ヲ削ル

第九條中「三十日」ヲ「一月」ニ、「六十日」ヲ「二月」ニ改ム

第七十九條ノ二中「療養ノ給付」ノ下ニ「又ハ傷病手當金ノ支給」ヲ加フ

第七十九條ノ三、第八十四條及第八十八條中「百八十八日」ヲ「六月」ニ改ム

第八十七條ノ三第三項ノ次ニ左ノ三項ヲ加フ

世帯員ガ保險者ノ指定シタル醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テハ保險者ハ其ノ世帯員ガ當該醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ對シテ拂フベキ療養ニ要シタル費用ニ付補給金トシテ被保險者ニ對シ支給スベキ額ノ限度ニ於テ被保險者ニ代リ當該醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ對シ之ヲ支拂フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ對シテ費用ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ其ノ限度ニ於テ被保險者ニ對シ補給金ヲ支給シタルモノト看做ス
世帯員ガ保險者ノ指定シタル醫師、齒科醫師又ハ藥劑師以外ノ者ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於ケル補給金ノ支給方法ハ厚生大臣之ヲ定ム

第八十九條第二項中「療養費、埋葬料及分娩費」ヲ「療養費、埋葬料、分娩費及補給金」ニ改ム

第九十四條 保險料額ハ各月ニ付各被保險者ノ標準報酬月額ニ保險料率ヲ乘ジテ得タル額トス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル日ガ十六日以後ナル場合又ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日ガ二日以後十六日以前ナル場合ニ於テハ其ノ月分ノ保險料額ハ之ヲ半額トス

被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ間ニ於ケル保險料額ハ被保險者タリシ日數ガ十六日以上ナルトキハ其ノ月分ノ保險料額ノ全額、十五日以内ナルトキハ其ノ半額トス

第九十四條ノ二 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ關スル保險料ハ其ノ被保險者ト爲リタル日ガ十七日以後ナルトキハ其ノ翌月ヨリ、十六日以前ナルトキハ其ノ月ヨリ之ヲ算定ス

前項ノ場合ニ於テ毎月ノ保險料ノ算定方法ハ前條ノ例ニ依ル但シ前項後段ノ場合ニ於テ被保險者ト爲リタル日ガ二日以後十六日以前ナルトキハ其ノ月分ノ保險料額ハ保險料月額ノ半額トス

第九十七條ノ二 被保險者ガ健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其ノ日ガ其ノ屬スル月ノ全日數ニ亙ル場合ニ於テハ其ノ月分ノ保險料額ノ全額ヲ、其ノ屬スル月ノ全日數ニ亙ラザルモ十五日以上ナル場合ニ於テハ其ノ月分ノ保險料額ノ半額ヲ徴收セズ

附則
本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
大正十五年六月三十日勅令第二百四十三號健康保險法施行令抄錄

第八條ノ二 健康保險法第八十一條ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

第九條 臨時ニ使用セラルル者ノ中左ニ掲グル者ハ健康保險法第十三條但書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ被保險者タラザルモノトス但シ第一號ニ

該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條ノ二 健康保險組合ハ健康保險法第四十七條第二項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ヲ爲サントスルトキハ規約ヲ以テ其ノ旨ヲ定ムベシ

第七十九條ノ三 健康保險法第四十七條第一項但書ノ規定ニ依ル期間ハ百八十日トス

第八十九條第二項ノ埋葬費ニ付亦同ジ

第九十四條 保險料額ハ各月ニ付各被保險者ノ標準報酬月額ニ保險料率ヲ乘ジテ得タル額トス

被保險者ノ資格ヲ取得シ(月ノ初日ニ資格ヲ取得シタル場合ヲ除ク)又ハ喪失シタル月ニ於ケル被保險料額ハ各日ニ付標準報酬月額ノ三十分ノ一ニ保險料率ヲ乘ジテ得タル額トス健康保險法第七十六條ノ規定ニ依リ保險料ヲ徴收セザル期間ガ月ノ全日數ニ亙ラザル場合ニ於ケル保險料額ニ付亦同ジ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ關スル保險料額ハ其ノ被保險者ト爲リタル日ヨリ前二項ノ例ニ依リ之ヲ算定ス

職員健康保險法施行令中改正

職員健康保險法施行令中改正の件は昭和十七年三月十八日付官報を以て公布を見たが、之を掲ぐれば次の

職員健康保險法施行令中改正の件は昭和十七年三月十八日付官報を以て公布を見たが、之を掲ぐれば次の

如くである。

職員健康保險法施行令中改正ノ件

(昭和十七年三月十七日 勅令第百七十六號)

職員健康保險法施行令中左ノ通改正ス

第八條第二項中「電氣供給ノ事業」ノ下ニ「及物ノ配給

(販賣ヲ除ク)ノ事業」ヲ加フ

第七十六條 療養費ノ額ハ療養ニ要スル費用又ハ療養

ニ要スル費用ヨリ厚生大臣ノ定ムル額ヲ控除シタル

額トス

前項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ定ムル額ハ療養ニ要ス

ル費用ノ十分ノ四ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項ノ療養ニ要スル費用ハ厚生大臣ノ定ムル所ニ

依リ之ヲ算定ス

特別ノ事由アル場合ニ於テハ職員健康保險組合ハ前

三項ノ規定ニ拘ラズ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコト

ヲ得

第七十九條 職員健康保險法第四十七條第三項ノ規定

ニ依リ徴收スル一部負擔金ノ額ハ第七十六條第一項

ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ定ムル額トス

特別ノ事由アル場合ニ於テハ職員健康保險組合ハ前

項ノ規定ニ拘ラズ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ

得

第七十九條ノ四 前二條ノ規定ハ職員健康保險法第五

十條第二項ノ規定ニ依リ傷病手當金ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十四年十二月二十 勅令第八百五十八號職員健

康保險法施行令抄録

第八條 職員健康保險法第十八條第一項第一號乃至

第五號ニ掲グル事業ノ範圍ハ左ノ如シ

(左記略ス)

同法同條同項第六號ノ規定ニ依リ電氣供給ノ事業

ヲ指定ス

第七十六條 療養費ノ額ハ療養ニ要スル費用ノ十分

ノ六乃至十分ノ八ノ範圍内ニ於テ厚生大臣ノ定ム

ル割合ヲ標準トシテ算定シタル額トス

前項ノ療養ニ要スル費用ハ厚生大臣ノ定ムル所ニ

依リ之ヲ算定ス

特別ノ事由アル場合ニ於テハ職員健康保險組合ハ

前項ノ規定ニ拘ラズ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコ

トヲ得

第七十九條 職員健康保險法第四十七條第三項ノ規

定ニ依リ徴收スル一部負擔金ノ額ハ療養ノ給付ニ

要スル費用ノ十分ノ二乃至十分ノ四ノ範圍内ニ於

テ厚生大臣ノ定ムル割合ヲ標準トシテ算定シタル

額トス

恩給法改正法律の一部施行期日の件

公布

人口政策的考慮を加へた恩給法の改正については既に本誌前號本欄に所報の通りであるが、その一部施行期日の件は昭和十七年二月二十八日及び三月二十七日付官報を以て公布せられた。之を掲ぐれば次の如くである。

恩給法改正法律の一部施行期日ノ

(昭和十七年二月二十七日 勅令第百一十一號)

昭和十七年法律第三十四號中恩給法第七十二條及第七十四條ノ二ノ改正規定ハ昭和十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正十二年四月十四日法律第四十八號恩給法抄録

第七十二條第一項、第三項及第四項

本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スベキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スベキ者ノ死亡ノ當時之下同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

戸籍届出ノ委託ヲ爲シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後委託ニ基ク届出ガ受理セラレ又ハ戸籍届書ヲ郵送シタル後届出人死亡シ其ノ死亡後届書ガ受理セラレタルトキ其ノ届出ガ他ノ法令ニ依リ届出人死亡ノ時ニ爲サレタルモノト看做サル場合ニ於テハ其ノ届出ニ因リ公務員又ハ之ニ準スベキ者ト

同一戸籍内ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子又ハ兄弟姉妹ト爲ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ當該届出ガ届出人ノ死亡後二年内ニ受理セラレタルトキニ限り届出人ノ死亡ノ時ヨリ公務員又ハ之ニ準スベキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子又ハ兄弟姉妹トシテ之ト同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

公務員又ハ之ニ準スベキ者ノ死亡後認知ノ裁判アリテ公務員又ハ之ニ準スベキ者ノ子トシテ認知セラレタル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員